

ますなが歩こう会・米子下町ガイドと歩く

「なつかしの小路と町家めぐり」

江戸時代から米子に伝わるなつかしい小路と良質な町家(商家)を
「小路と町家マップ」を片手に、のんびり町歩きはいかがですか？





米子の町家 (特徴)



内部 (中の間の吹き抜け空間) 提供 米子の町家・町並み保存再生プロジェクト

◆ 小路紹介



あからんかんしょうじ
赤らんかん小路

道笑町から西念寺山門
にいたる小路。
名の由来は小路の北側に
赤らんかんのある
料理屋があったことになむ。



かくしょういんしょうじ
覚証院小路

加茂川に架かる
覚証院橋を渡ると、
松龍寺覚証院が
あったことになむ。



さいねんじしょうじ
西念寺小路

法勝寺町から西念寺に
向かう馬場道で、近郊
から年貢を運ぶために
も利用された。



ぜんこういんしょうじ
善光院小路

加茂川に架かる善光
院橋を渡った先に、
善光院があったこと
になむ。



てっぽうしょうじ
鉄砲小路

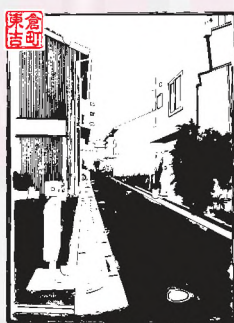
外堀に架かる鉄砲小頭橋
を渡ると、米子城の鉄砲
足軽が居住する五十人
鉄砲町があったこと
になむ。



かげやまやしろうじ

景山屋小路

江戸時代から続く糶や醤油の製造販売業の景山屋があることにちなむ。



みどりしろうじ

みどり小路

東倉吉町裏(柳町)の加茂川べりにあった小路をみどり小路といった。



はおりやしろうじ

羽織屋小路

小路の東側に呉服商羽織屋があったことにちなむ。



こうじんしろうじ

荒神小路

福巖院小路につながる小路。荒神宮(萬能社)があったことにちなむ。



ゆうがどうしろうじ

瑜伽堂小路

加茂川に架かる瑜伽堂橋を渡った先に瑜伽堂があったことにちなむ。



からものやしろうじ

唐物屋小路

日野町と道笑町の境にある。新出雲街道(上方往来)として交通の要衝であった。



ひょうたんしろうじ

瓢箪小路

名の由来は不明だが縁起の良い形とされる瓢箪になぞられたらしい。

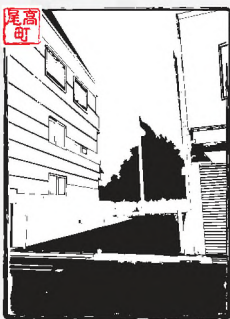


ふくごういんしろうじ

福巖院小路

茶町と日野町の境の小路。外堀に架かる橋のあたりに福巖院があったことにちなむ。

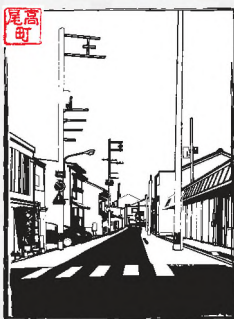
尾高町



あいざしょうじ 藍座小路

米子藍製座に向かう小路である。

尾高町



しんしょうじ 新小路

江戸後期、尾高町裏の藍製座に行くために新たにつくられた小路。

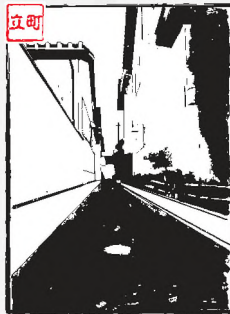
路倉町



りょうぜんじしょうじ 涼善寺小路

小路の正面に浄土宗涼善寺があったことにちなむ。

立町



いちべいはんしょうじ 市兵衛はん小路

外堀に面して豪商村川市兵衛の広大な屋敷があり、屋敷からの寺参りに用いた小路である。

立町



かしましょうじ 鹿島小路

鹿島小路は豪商鹿島本家と分家(下鹿)の屋敷の間にある小路である。

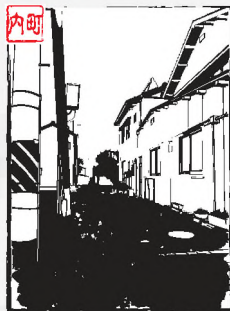
立町



かしまばみち 鹿島馬場道

鹿島家裏手の心光寺に至る小路は鹿島本家・分家(下鹿)の馬場道であったことから鹿島馬場道と呼ばれていた。

内町



かわせしょうじ 為替小路

内町から為替蔵に向かう小路であったことにちなむ。

織町



てしましょうじ 手島小路

北側に「手島百貨店」と呼ばれた繁盛店があったことにちなむ。

織町



だるましょうじ だるま小路

小路の由来は不明。かつて小路の南側に「カフェーダルマ」があった。

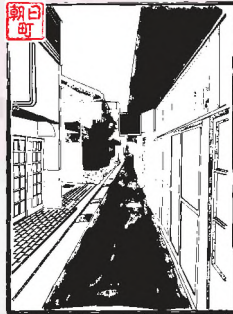
立町
岩倉町



なかんたなしょうじ
中ノ棚小路
(中ノ棚まがり)

加茂川(外堀)にかかる中ノ棚橋と
法勝寺町から続く中筋をつなぐ小路。

朝日町



もりやましょうじ
森山小路

小路沿いに朝日座の経営者で
安来節を世に広めた最大の功労者
森山清太郎氏の屋敷があった。

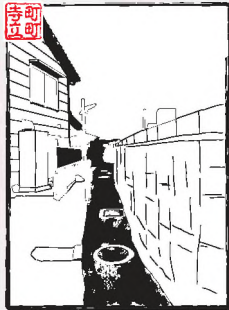
立町
岩倉町



ほんぎょうじしょうじ
本教寺小路

小路の東側に日蓮宗本教寺
があることにちなむ。

立町
岩倉町



まんぶくじしょうじ
万福寺小路

万福寺の裏手に沿ってつくられ
た小路であったことにちなむ。

立町
岩倉町



ずいせんじしょうじ
瑞仙寺小路

小路名は瑞仙寺の門前につながる
小路であることにちなむ。

立町
岩倉町



みょうこうじしょうじ
妙興寺小路

妙興寺が地所を供して
出来た小路である。

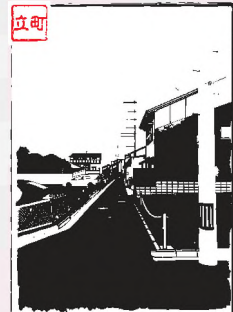
立町
岩倉町



みょうぜんじしょうじ
妙善寺小路

妙善寺山門に通ずる
小路であることにちなむ。

立町



えのきしょうじ
榎小路

鹿島分家北側の小路で奥に
榎神社があったことにちなむ。

立町



きちじょういんしょうじ
吉祥院小路

灘町一丁目から吉祥院
正門前へ通ずる小路。

～米子の町家～

町家とは

町家とは、城下町や宿場町など高い密度で人々が住み、商売や手工業が盛んな土地に建てられた職住一体型の住居形式で、江戸・明治・大正・昭和（戦前）に建てられたものを云います。

米子の町家の特徴

米子の町家は、他の地域の町家にはあまり見られない独特の形式が見られます。

- 1 中の間（座敷）の上が豪快な吹き抜けになっている
- 2 茶室が設えてある町家が多い。離れ、主屋の二階、三階など敷地に合わせて多彩
- 3 間口は2間～3間と京町家と同じだが、奥行は40～50mもあり深い
- 4 敷地の一番奥に土蔵があり外堀を利用して物資が運び込まれた。 などです。

江戸時代初期から明治・大正・昭和までの長い期間をかけて、米子の地形・気候・風土・気質等に適応した町家・町並みが整えられていったことを物語っていると思います。

石賀本店

創業が永世年間（500年前）という山陰最古（長寿）の企業で、荒物屋から始まり、徐々に陶器と神仏具に特化していったという。現在は陶器のほか華道具・神仏具の専門店として営業しており、オーダーメイドで華道具や神棚の制作や修理も行っている。現店舗は「つし二階」や「吹き抜け」「神棚」という米子の古い町家の特徴を良く残している。また、旧外堀に面して建つ店裏にある「善五郎三連蔵」（国の有形登録文化財）には、眼鏡店、コーヒーショップ、飲食店などが入居する複合施設でまちの人気スポット。

所在地：米子市法勝寺町22 電話：0859-22-2064

営業時間：9時～18時 定休日：木曜日



平野屋呉服店

創業は慶長3年（1598年）頃という老舗の呉服店。現在の店が建てられたのは天保2年（1831年）で、店に入ると手入れの行き届いた見事な吹き抜けを見ることが出来る。二階には六歌仙の歌人と和歌を透かし彫りした欄間のある座敷や茶室「玉樹庵」もあるなど、米子を代表する良質な町家。また、漫画家木木しげる氏の母の生家としても有名（平野屋の初代猪三郎さんの妹）正絹製の和装のかばんや弓ヶ浜緋「緋音工房」の印鑑ケースや甲州印伝の財布など小物も人気がある。

所在地：米子市法勝寺町66 電話：0859-22-4431

営業時間：10時～18時 定休日：木曜日



もつ鍋 椿や

江戸時代から続く老舗の宿屋「松屋」が明治中期に建てた木造三階建ての旅館をリノベーションした風情あふれる料理屋。米子の町家の特徴である長い通り庭や箱階段も残されている。

椿や自慢のもつ鍋が一人前の小鍋にお造りや一品料理がついたボリューム満点の「もつ鍋御膳」としてランチでも楽しめるようになりました。

「椿や日替わり定食」やちょっとオシャレな「カフェ風ランチ」も人気。

所在地：米子市東倉吉町41 電話：0859-21-5598

営業時間：LUNCH 11:30～15:00 DINNER 17:30～23:00

定休日：不定休



笑い庵

江戸末期から明治の初めにかけて建てられた古い町家で、呉服商や薬局として使われた後、空き家となっていたが、平成11年、地域の人たちの力で住民の集える無料休憩所「笑い庵」としてオープン。平成22年9月にはまちづくりの拠点施設として再オープンした。

一階は、カフェレストラン「トイズ・キッチン・カフェ」などの飲食店、二階には「暮らしカルチャースペース」や「オフィススペース」が整備されている。

所在地：米子市西倉吉町57 電話：090-6837-2731 (住田)

トイズ・キッチン・カフェ 電話：0859-35-5383

カフェ&バー ミ・パレバ



岡本一銭屋

店内には懐かしい駄菓子やおもちゃがあふれており、いつも多くの子供で賑わっている。建物の建築年代は、江戸末期から明治初期と思われる。

通り庭の先には坪庭が設えてあり、井戸には屋根がかかり釣瓶がつるされている。主屋の中央、中の間は吹き抜けで、2階部分は三方に手摺が回っており、周囲二方は廊下となっている。2階には三室あるが店部分の上部の室は船底天井に床、棚があり趣のある室となっている。

所在地：米子市立町1丁目4 電話：0859-22-2676



長田茶店

有機栽培茶商品数日本一を誇る、山陰有数の老舗。建物の建築年代は江戸時代に遡るものと思われる。主屋は厨子二階で、中の間の吹き抜け部分には、神棚が設えてあり、上部の棟で黒くなった大梁が町家の豪放さと素朴さを見せている。

奥には、灯籠や手水鉢が添えられた露地風の庭がある。

2階は床や書院を備えた8畳の座敷や4畳の茶室も設けられている。主屋のファサードは2階の軒が低く、加茂川周辺の古い時代の町家の外観を伝えている。

所在地：岩倉町本店 米子市岩倉町76

電話：0859-22-7602 (HP) <http://www.nagatachamise.jp/>



鹿島茶舗 (鹿島本家)

鹿島氏は、江戸時代、城下有数の豪商として米子城修理費や木綿座創設、為替座創設などに巨額の資金を拠出するなど城下の発展に尽くした。主屋は、昭和初期の建築で、1階の通り庭に浴って、ミセ、中の間、仏間、奥の間と並んでいる。

中の間の上部は吹き抜けとなっており、二階に通じる階段は襖の中に付設されている。

中庭には、米子城修理の功績を証す鯨鉢（しゃちほこ）が置かれている。

所在地：米子市立町2丁目44 電話：0859-22-3033



なつかしの小路と町家めぐりマップ ~魅力的な小路~

米子まちなか歩こう会は平成27年3月から平成29年3月にかけて、日野町の元町サンロードと本通り、笑い通りを含む国道9号以西の米子下町エリアにある小路に名前の由来とイラストを盛り込んだ「小路案内板」を設置しました。

このマップは案内板を設置した小路を中心に、小路や町家など町並みをたどるために作成したものです。

現在残っている小路は、約400年前に米子藩18万石が立藩したときにつくられたものがほとんどで、江戸・明治・大正・昭和（戦前）に建てられた米子町家（約700棟）とともに後世に伝えていくべき米子の都市遺産＝米子の宝です。

時代の流れの中で大きく姿を変えた小路もあれば、行き交う人を包み込む路地としての表情を残している小路もあります。

それぞれの小路の魅力を楽しみながら、今も残る米子の歴史を感じてください。

2017年3月発行 発行元：米子まちなか歩こう会

Tel：090-4898-2595



※小路スタンプは米子市観光案内所（JR米子駅構内）に設置しています。

Tel：0859-22-6317（9：00～18：00）